

うきは幸輪保育園・老人ホーム エバーガーデンうきは



園児たちが元気いっぱい知事を歓迎

この日も園児と高齢者が楽しく触れ合う光景が見られた



保育園と老人ホームが園庭を挟んで同じ敷地内に設置された「幼老連携施設」として注目を集めている同施設。老人ホームの入居者からは「子どもたちとの触れ合いが生きがいの声」が聞かれた

滞在型交流施設 注連原住宅

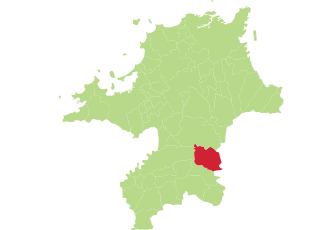


新川田地区の川沿いにある集落は、茅葺民家と棚田がつくる山里の風景が広がる。注連原住宅(愛称:うきはボサーダ)は、平成24年の九州北部豪雨で被害を受けた古民家を再建築した施設で、宿泊も可能。来年のオープンを予定している



地区の皆さんから現在の様子や、うきはボサーダを活用した今後の展望などについて説明を受けた

小川知事が県内各地に出向き、県民の皆さんと直接触れ合う「知事のふるさと訪問」。県内有数のフルーツの産地で、古き良き町並みが残るうきは市を訪れました。



うきは市

平成28年9月14日



「日本の棚田百選」にも選ばれたつづら棚田

エリソン・オニツカ橋



エリソン・オニツカ橋の前で地域の皆さんと。没後10年となる平成8年に架け替えが行われた橋にオニツカ氏の名が付けられた



今年3月には、浮羽中学校の生徒たちが作成したオニツカ氏の言葉を伝える看板が設置されるなど、現在も郷土の英雄として語り継がれている



日系人初の宇宙飛行士エリソン・オニツカ氏。1983(昭和58)年に先祖の墓参りで浮羽町(現うきは市)を訪れた際、浮羽中学校で記念講演を行った。1986(昭和61)年、搭乗したチャレンジャー号の爆発事故により死去

甘柿「秋王」の農園



県が開発した新品種の甘柿「秋王」は、糖度が高くサクサクとした食感で、種がほとんどないのが特徴

うきは市は、「フルーツ王国うきは」として、四季折々のフルーツのおいしさを発信しており、この日は、柿の「早秋」や種なしぶどうの「BKシードレス」も紹介された



団体紹介



うきはブランド推進隊

市外からの移住者10人が活動中のうきは市の地域おこし協力隊。うきはの豊かな地域資源と隊員個々の経験や能力を生かし、市のブランディング事業に取り組む。観光ツーリズムや食のブランディング、駅活用、移住・定住促進など、その活動は幅広い



「自然、文化、歴史など、うきは市の豊かな地域資源をいかに活用するか。皆さんと一緒に盛り上げていきたい」と知事



カフェ&どらやき店「キチココ」の中村宏司(写真右)・奈穂夫妻。結婚を機に北九州から移住し、吉井町白壁通りの観光案内所で飲食店を営む。九州各地でのイベントに出店し、市のPRに貢献するほか、今年6月に市内で開催した「熊本・大分応援フェアinうきは」では世話人として活躍



「うきはブランド推進隊」の馬場亮子さん。通訳としての経験を生かし、オランダやハワイとの交流など、うきはブランドの海外展開に取り組む



「故エリソン・オニツカ氏を後世に語り継ぐ実行委員会」事務局長の関健児さん。慰霊祭の開催や同氏の祖父の家跡の清掃活動を行っている



「龍宮株式会社」代表取締役社長の梯恒三さん。医療用のガーゼと脱脂綿で作る健康履具「パシーマ®」を市内の新生児に贈り、地域に貢献



「株式会社うきはレインボーファーム」代表取締役社長の高浪真次さん(写真左)と取締役チーフマネージャーの樋口浩一さん。新規就農者の育成に取り組む。東日本大震災を機に福島県から移住した研修生は、市内でトマト農家としての就農を目指している

地域で頑張る皆さん

対話

小川知事

マルキタ流通株式会社(小倉北区)



マルキタ流通株式会社は、市内で複数の障害福祉サービス事業所を運営する「北九州市手をつなぐ育成会」に業務を委託。障害者の皆さんは同社の加工場まで出向いて働いている



障害者の皆さんは青果の仕分けや袋詰め、シール貼りなどの作業を担当。誰にでも使いやすい機械を導入することで、生産性も向上している



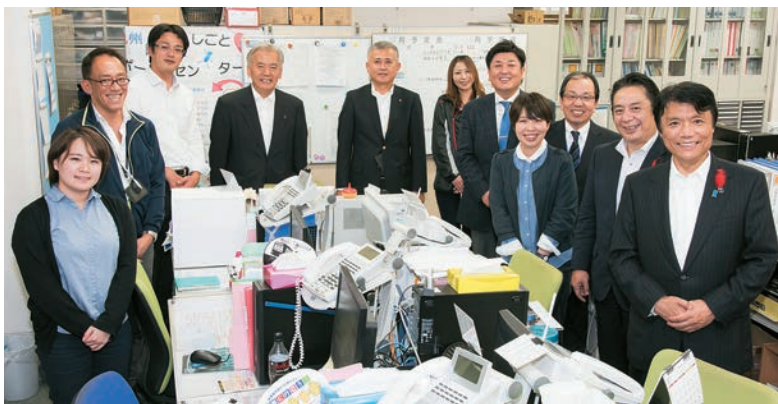
育成会は参加者の取りまとめや現場での作業指示などを行っており、企業と福祉施設の連携が障害者の社会参加の促進や収入向上につながっている

北九州障害者しごとサポートセンター(戸畑区)

国・県・北九州市の委託を受け運営される同センターは、障害者の就業・生活支援に取り組んでいる



求職活動の支援や関連機関との調整をはじめ、就職後も安定して働けるように職場定着支援にも力を入れている



団体紹介



「二丁目の元気」(北九州市小倉北区京町) 障害者自立支援ショップ

障害者の皆さんが制作した商品を販売するほか、各種イベントが開催され、地域交流の拠点となっている。店内にはカフェもあり、数量限定のランチセットが楽しめる。NPO法人北九州小規模連が運営



「障害者の皆さまの就労支援、理解促進に社会全体で取り組み、全ての方が生き生きと活躍できる福岡県を目指していきましょう」と知事



障害者団体などで構成する「北九州市障害福祉団体連絡協議会」事務局長の古賀由美子さん。障害者への理解促進のための啓発活動や行政機関への要望活動に取り組む



「NPO法人北九州自立生活センター」代表の林芳江さん。自身の障害者としての経験を基に、障害者の自立に向けた精神的なサポートや情報提供を行う事業を実施

北九州市立特別支援学校 北九州中央高等学園(戸畑区)



北九州中央高等学園の皆さんと。同校では、生徒たちが将来自立した生活を送り、就業するために必要な力を身に付ける教育カリキュラムを実践



知事が訪れたこの日は学校開放週間の期間中。生徒たちが育てた野菜や苗、オリジナルカレンダーなどの販売が行われた



学校内にある喫茶室。学習の一環として、生徒たちがケーキやパンの製造・販売や注文・配膳などの接客も行っている



同校の特色である「作業学習」は実践的な技能の習得を目指すもので、清掃や印刷、木工、織物など多様なカリキュラムが組まれている



きた きゅう しゅう し
北九州市

平成28年10月28日

障害者の就労支援と
就労定着支援の取り組みを進め、
すべての市民が互いを尊重し合う
”共生のまちづくり”を目指す
北九州市を小川知事が訪れました。

地域で
頑張る皆さん

対話

小川知事